

西だよりに思う

本号の特集に際し、早速ご寄稿いただきありがとうございました。

毎号、編集委員会では時間をかけてテーマの選定をしています。皆様の読後感を読ませていただき、これからも頑張ろうと元気が出てまいりました。

でも、よくよく考えてみますと、そこには叱咤激励が含まれているのではと思い、もっと勉強をして、身近でより良いものをお届けしなければと奮起した次第です。



記念すべき第1号
(2005年12月1日発行)

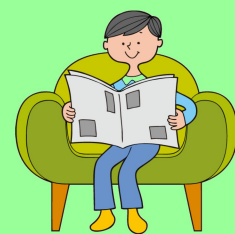
読者と同じ目線で作り続けて

春日 忻皓さん(関沢2)

「つるせ西だより」は、東武東上線を境に富士見市の鶴瀬西・関沢地域に約1万部が配布され、長期に渡り愛読されている「地域広報紙」です。私も愛読者の1人として、なぜ長期に渡り愛読されているかを分析してみました。

まず記事・内容が読者の目線で書かれていること、2つ目は文章の表現に飾りがなく、そして3つ目は地域にマッチした話題であることが挙げられると思います。以前に読んだ「つるせ西だより」寄稿文に母親が登場する場面があり、母親の表現方法には「母」「母上」「お母さん」「お袋」などがよく使われると思います。執筆者はそのうちどれを使うのかと興味が引かれたところ、答えは「お袋」でした。執筆者は何気なく「お袋」を使ったかもしれませんが、これが文章全体からくる描写とピタッと合い、まるで組み立てパズルの最後の1枚がピタッと収まり合ったあの時の心境と同じように強く感じられました。

編集委員の皆さん、今後も読者と同じ目線で飾らずに地域性を持ち、いつまでも書き続けていただくことを希望します。読者は次号を待っています。



多彩な内容に期待

荻島 孝亮さん(鶴馬)

いつまでも終わらないコロナ禍で、出歩くことが少なくなり、地域の出来事などを知る機会が極端に減少した昨今、私にとって「西だより」は頼りになる大切なニュースソースとなっています。

時には共感し、時には笑いを誘い、時には考えさせられ、時には感心し、時には感動し、時には元気づけられ、時には家族の話題となる等々、今後ともより一層きめ細かい多彩な内容で紙面をにぎわし、私たちを楽しませてくれることに期待をこめて、編集委員の皆さんにエール!!



参加型の紙面づくりを

出井 隆志さん(上沢3)

毎号読ませていただくのを楽しみにしています。それは、編集の軸足が地域を生きる人の声を聴くことに置かれている故だと思っています。地域の歴史や出来事を取り上げる際にも、人という実体に焦点を当てているからこそ興味深いのではないのでしょうか。執筆の方の思いや生き方の一端に触れることは、自らの生き方を振り返る良き機会でもあります。これからも、時節に合った話題で参加型の方向性を続けていただければと思います。

心安らぐ話題がいい

沢田 幸子さん(関沢2)

周囲のちょっとした話題に関心がいく。何丁目の誰々さんの「へえー」という話とか、珍しい花が咲いたとか。だから、匿名ではなく、本名があれば読みたくなる。写真があればもっといい。人と人との繋がり、心安らぐ話題。「西だより」はそういう点に心が配られていると思う。

「編集後記」は、編集委員さんそれぞれの人柄と生活が想像されて楽しい。毎号楽しみにしています。



毎週、広報や西交流センターだより等を仕分けして、班長さんに配布をお願いしています。仕分けをしてくださっている方々に、お話しをお伺いしました。

- ★ 西地区の情報紙であるため、西地区が対象になると思いますが、西地区は、富士見市のはずれであり、富士見市全体の情報も取り込んでほしい。また他の市から移住している方も多いので、以前特集された地域の歴史的なものが、もっと知りたいと思う。
- ★ 西だよりを読んで、自身が体験したり、参加出来るような事前情報も欲しい。例えば「富士見市の開花情報」「市役所のアヤメの見ごろ時期情報」とか。
- ★ 最終面の情報は、地域で生活する人々にとって大変役に立つ情報だと思います。
- ★ 今後も発行を楽しみにしています。



・・・などの意見が寄せられました。(編集委員 堀口)

発行者として、読者と編集委員に感謝と期待

富士見市立鶴瀬西交流センター
所長 鳥海 謙一



日ごろより「つるせ西だより」をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

この「つるせ西だより」は2005年当時、鶴瀬西交流センターのオープンに伴い第1号が発行され、今年で18年目を迎えることとなります。

これもひとえに読者の皆様をはじめ、時にはコメントをお寄せいただき時には取材にご協力くださる皆様と、創刊から長きにわたり紙面づくりに携われてこられた歴代編集委員の皆様のおかげと、改めて心から敬意を表します。

「つるせ西だより」は、「まちの話題や地域の催し物の活動紹介」「地元の豆知識」などをはじめ、毎月編集委員により身近なニュースや話題を取材するとともに、編集した内容を地域の暮らしや生活に根ざした情報として発信することで地域の魅力再発見と地域力を推進する原動力となっております。

地域情報紙の紙面構成にあたっては、読者の関心や要望には男女差、年代差などがあるとともに時代の流れによって変化するもので、適切に、そして新鮮な情報をいち早くキャッチし、読者に合わせた情報をお届けすることが暮らしのあらゆる場面で役に立つことができると考えています。

これから先も更に地域の皆様に愛される情報紙として、未永く関心を持って読み続けていただけるような紙面づくりになりますことを期待したいと思います。

最後に、「つるせ西だより」へのご意見・ご感想は編集委員の励みにもなりますので、今後もお寄せください。また、編集委員に興味関心のある方を現在募集しているところです。お問い合わせをお待ちしております。

つるせ西だより編集委員募集!!

地域に親しまれる「つるせ西だより」を一緒に作りませんか?市民編集委員が、毎月第1・3金曜日の午前10時から、世間話をしながら和気あいあいと会議をしています。興味のある方、ぜひ一度お気軽にのぞいてみてください。